

平成26年度 青少年問題を考える地域懇話会

当協会では市町村民会議の活動を支援するため、地域の青少年問題について、有識者と地域の活動指導者が意見交換等を行う「青少年問題を考える地域懇話会」を開催しています。26年度は浦河町、稚内市（共に2月）の2箇所、それぞれの青少年育成市町村民会議と共催して開催しました。

両会場では、青少年の健全育成のための課題や解決方策について、話題提供者（有識者）のお話をもとに、グループ討論や有識者による助言をうけ、活発で実りある懇話会が行われました。

【浦河町】 テーマ「青少年の心を育てるために」～学校・家庭・地域との連携のあり方について～

●共催 浦河町青少年育成対策室協力団体幹事会

●後援 浦河町教育委員会

●話題提供・助言者

話題：「次代を担う青少年を育てるために」

札幌国際大学スポーツ人間学部スポーツビジネス学科
教授 佐久間 章 氏

●コーディネーター 日高教育局社会教育指導班

主査 横山 宏樹 氏

●概要

話題提供では、鉄人28号的（操縦される）・鉄腕アトムの（自分で考える）人間の例をもとに、これからの時代は正解のない問題に対して主体性をもって、仲間とともに答えを見いだす力などコミュニケーション能力が求められている。子どもたちを育てるために、どう考え、どう連携していくのか、地域の皆さんで考える必要があるというお話がありました。

意見交流では参加者を4つのグループに分け、「参加者が取り組んでいる活動、お話を聞いて何が必要か、明日からこれはやるぞ」などについて交流をしました。交流の中で、「コミュニケーション等を伝えるために学校現場で今日のお話を広める。」「子どもに共感する、型にはめない、決めつけないを実行する。」「あいさつを大切にする。」「自分もストレスをもたないように活動する。」などの意見が出ました。

佐久間氏からは、「いい仕事をするためには、チームワークが大事。（今日で「チーム浦河」のまとまりのよさが見えた）また、活動機会の格差があるため、体験をうけさせたい子どもや親の家庭にも、参加機会が与えられるような活動や行動の工夫が、今後も重要になってくる。」という助言がありました。

終始和やかで、「また、こうした会が開けたらいいね。」そんな感想がたくさん聞こえた懇話会となりました。



【稚内市】 テーマ「地域の子どもを守り育てるために～家庭・学校・地域は何をすべきか～」

●共催 稚内市教育委員会

稚内市子ども安全育成センター

●話題提供・助言者

「地域活動を活性化させるために何が必要か」

（地独）道立総合研究機構北方建築総合研究所 環境科学部
部長 松村 博文 氏

●コーディネーター 宗谷教育局社会教育指導班

主査 田中 豊 氏

●概要

話題提供では、旭川市の子どもの安全を守る「近文あい運動」を事例にして、活動を活性化させる手立てとして、課題や成果、活動のやりがいなどを「見える化」する方策とその効果についての話がありました。

意見交流では、参加者を5つのグループに分け、「お話を聞いて、これからの活動に活かすこと」について交流をしました。各グループからは、「集団下校で一人になる場所調査が参考になった。」「冬の見守り活動では、学校の玄関から子どもたちと歩いて帰るのもいいと呼びかけてみる。」「避難訓練を地域の方に広げようと考えていた。お互いの関係づくりのために地域に呼びかけてみたい。」「感謝の気持ちを伝える、活動が見えるようする、マップづくりが大変参考になった。」「110番の旗やステッカーがどうなっているかなど、スクールガードとして確かめなければならないことが結構あると思った。」などの意見が出されました。

松村氏からは、活動が盛んになればなるほど、子どもの情報、配付したステッカーなどの物の管理に気をつける。（不審者に悪用される恐れがある）担い手づくりでは、小さなことでも「やってよかった情報」を集めて発信していくことが大切です。多くの地域は、学校が主体になって見守り活動をやっているが、これでは長続きしない。住民が地域のためにやっていることだから、学校に頼らない活動が長続きすることにつながるという助言がありました。参加者一人一人のお話を聞いて、「確かな地域活動があるからこそ、活動を活性化させる工夫や建設的な意見が出てくる。」そう感じさせた地域懇話会となりました。

最後に、コーディネーターが「意見交流で見つけられた方向を地域で実践してほしい。」とまとめました。

